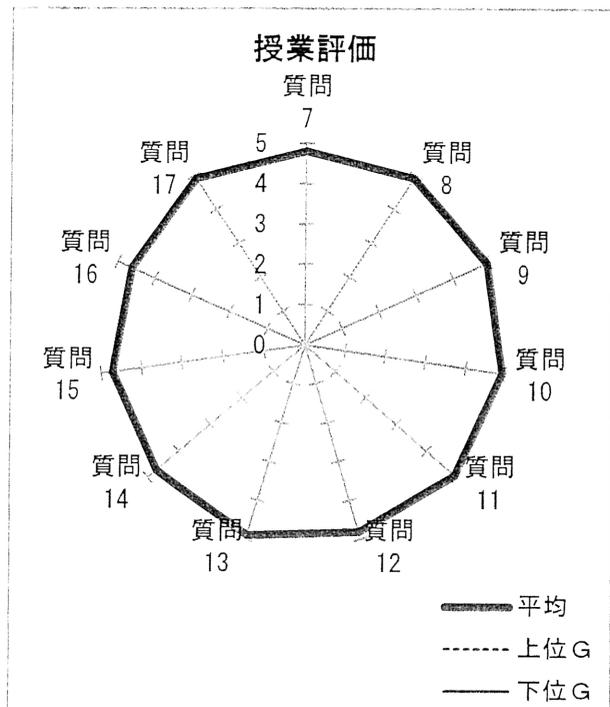


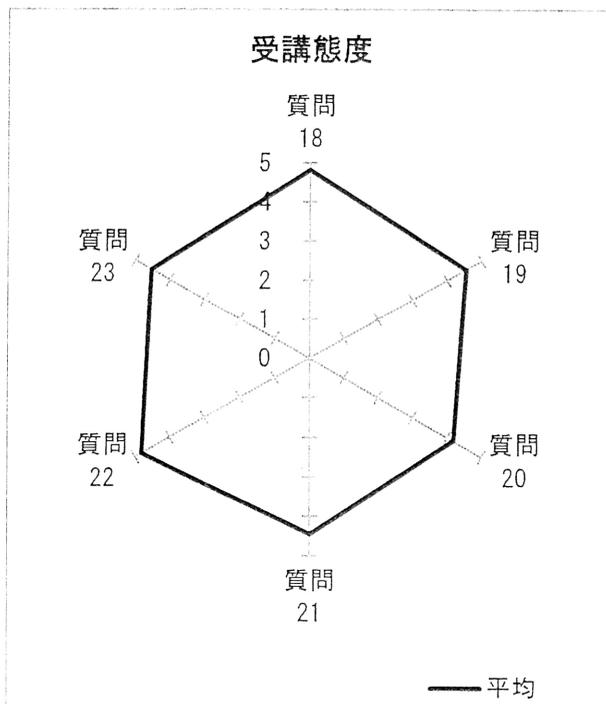
科目コード 201 (2018年度 後期)

国際文化・文学部 日本文化学科 石井 奈緒 批判的に考え、意見を発信するためにA



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 8	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 9	4.9	4.9	#DIV/0!
質問10	4.9	4.9	#DIV/0!
質問11	4.9	4.9	#DIV/0!
質問12	4.8	4.8	#DIV/0!
質問13	4.9	4.9	#DIV/0!
質問14	4.7	4.7	#DIV/0!
質問15	4.7	4.7	#DIV/0!
質問16	4.6	4.6	#DIV/0!
質問17	4.9	4.9	#DIV/0!
平均	4.8	4.8	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.8
質問19	4.5
質問20	4.2
質問21	4.5
質問22	4.8
質問23	4.5
平均	4.6

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
国際文化学部	日本文化	石井 奈緒	批判的に考え意見を 発信するために A	登録 13 名 回答 11 名

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

□. 分析と評価

この科目は、旧カリキュラム文学部共有科目で選択必修として 6 単位を卒業までにとらなければならない。2 年次開講のため、2、3 年生が受講していることが多い。18 年度の受講者は 3 年生 5 名、2 年生 8 名であった。この科目の設定当初のコンセプト、「世論調査についての正確な知識をみにつけ、世論調査について評価ができるようになる」に基づいて中間発表会が開催される 11 月中旬までは、ワーディングの問題に取り組んだ。

ワーディングについては、教科書を 2 種類使って説明し、後半は図書館で世論調査年鑑を対象にワーディングの問題に抵触する事例を探し出してくる作業を行なった。その後生のデータを受講者全員で共有し、中間発表会に向けてワーディングの問題別にデータ振り分け、テーマごとの発表とした。このため、受講生全員が集めたデータを共有して、そこでデータの妥当性を吟味するという段階を経たため、グループワークの有用性が受講者にも認識できたと思われる。

この科目の受講生の自己評価はデータの通り、自己評価の高いグループしかいない。すなわち受講者全員が真面目に参加し、授業内容や到達目標を理解して受講し、欠席回数も少なく、授業の予習・復習を行い、レポートや・課題等に積極的に取り組み、他者の発言を傾聴したと答えている。一番低いのは欠席回数であるが、それは実際の欠席回数を参照すると皆勤の学生から、複数回休んだ学生も数人いるためそれが平均された数値である。

自己評価で高いのは 2 点授業に真面目に取り組んだか 4.8 ポイントとレポート・課題等に積極的に取り組んだか同じく 4.8 ポイントである。実際この年度の学生は、1 名（最後の授業評価にも参加していない）を除いては、いずれに対しても真摯に取り組んでいた。

授業の後半は公にされているデータを組み合わせ、世の中で起きている出来事、についてストーリーを作って説明する、という課題であった。公のデータに対する吟味が不十分なグループもあったが、概ね信頼できるデータを使い、説得力のあるストーリーを構築できていた。総括すると、この数値に表現されているような受講生であった。

□. 2019 年度に向けての取り組み

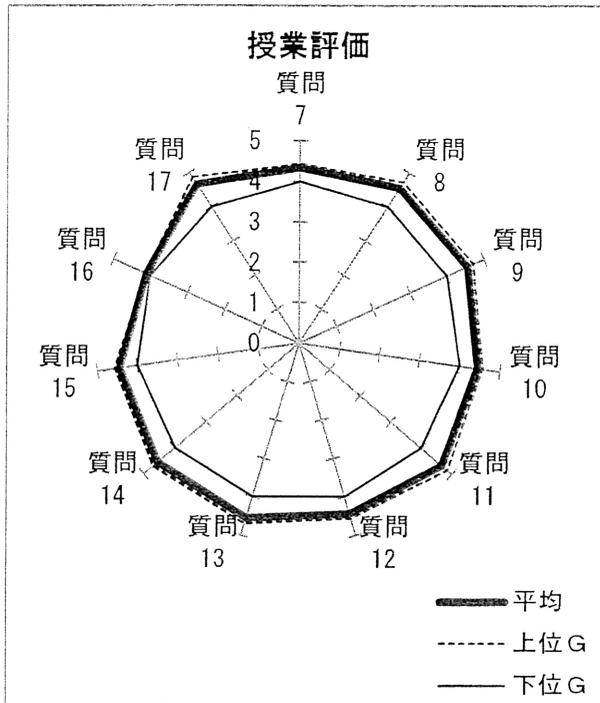
2019 年度担当予定科目名： 社会調査法

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

来年度は旧カリを順次閉じて新カリキュラムに移行していく。この科目も需要があれば、内容はほぼ同じなので、社会調査法と同時開講して、単位が必要な人に応えたい。

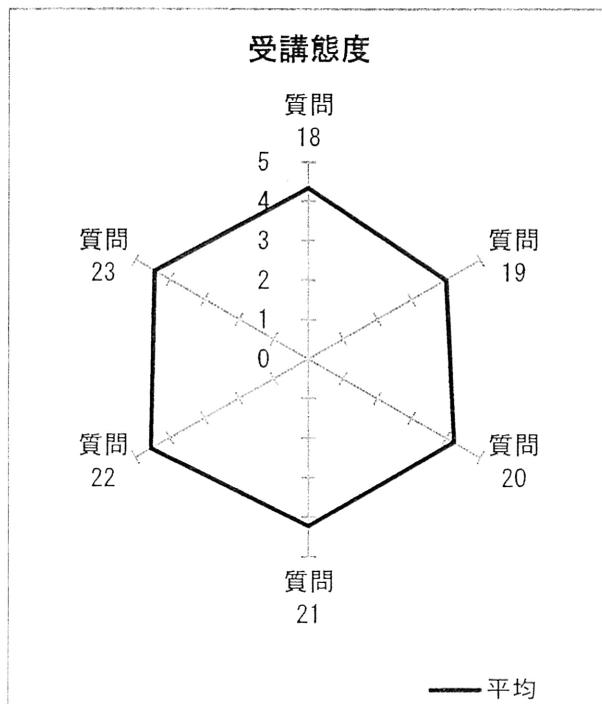
科目コード 205 (2018年度 後期)

国際文化・文学部 日本文化学科 黒木 香 古典文学講義Ⅱ



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.3	4.4	4.0
質問 8	4.6	4.7	4.0
質問 9	4.6	4.7	4.0
質問10	4.4	4.6	4.0
質問11	4.7	4.9	4.0
質問12	4.4	4.6	4.0
質問13	4.6	4.7	4.0
質問14	4.6	4.7	4.0
質問15	4.4	4.6	4.0
質問16	4.1	4.1	4.0
質問17	4.7	4.9	4.0
平均	4.5	4.6	4.0

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.3
質問19	4.0
質問20	4.2
質問21	4.2
質問22	4.6
質問23	4.4
平均	4.3

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
国際文化学部	日本文化学科	黒木 香	古典文学講義Ⅱ	10名

2018年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

前期の「古典文学講義Ⅰ」に対して、本科目では『平家物語』『方丈記』『徒然草』など平安末から鎌倉時代の作品を取り上げている。昨年度に続いて体調不良のため、授業内で立ち上がって話すことや学生に近寄っての応答を行なうことができなかつたのは申し訳なかつた。

前週に原文と現代語訳とその他基礎資料をコピーして配付し、作品への基礎知識を持ってもらった上で、原文の表現に即して読んでいく。伝統的でやや単調なところが多い授業内容であるが、比較的よく聴いてくれた。留学生も2名いたが、日本人学生に比しても理解度は高かつた。配付する原文資料はやや多めにし、表現を自分の目で確認し、作品の特徴を捉えてもらうことをめざした。そのため、授業としても新鮮度や意外性は低く、質問16「興味・関心・意欲を引き出したか」の数値が低くなつた。作品を味わい鑑賞するには単調であっても表現に即して時間をかけて読み続ける必要があると考える。ただし、琵琶の演奏CD以外に『平家物語』の映像など音響と映像資料をもっと活用すべきであつた。

質問22「レポート・課題への積極的取組み」がやや高いのは、授業外に作品ごとに内容を自分の視点で読む課題を複数回出したことによるものだろう。個人課題として提出評価するだけでなく、授業内で発表させ、互いの読みを知り合う機会を作ればよかつたと思っている。

II. 2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名： 日本文学講義Ⅲ

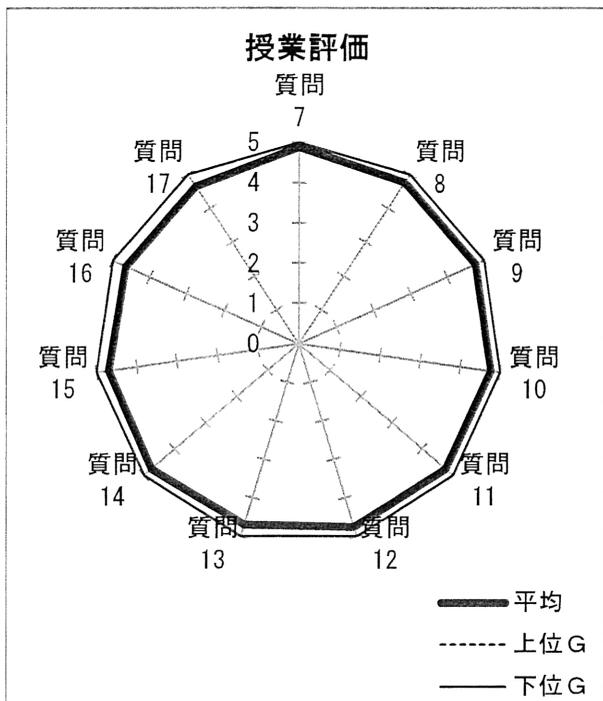
新コース発足に伴うカリキュラム改定のため、本科目に対応する「日本文学講義Ⅳ」が2020年度開講のため、「古典文学講義Ⅰ」に対応する「日本文学講義Ⅲ」について記す。

授業の内容に新鮮味がかけても作品をじっくり読むという形は崩せない。しかし、高校段階から古典文学への理解度が低い状態で、古典を読むのは困難になってきている。課題により作品への接近を図ってはいるが、短期間に複数の古典作品の内容を味わうことには些か無理があり、作品を限定していく。作品を読むためのワークシート（課題以外・授業内使用）を適宜配付してきたが、内容理解の個人用シートとしてだけでなく、受講者全体で共有し活用し、意見交換が可能になるようにしたい。

音響・映像資料も多くはないが、古典資料としての信頼度の高いものをさらに見つけ、授業に新味を加えたい。

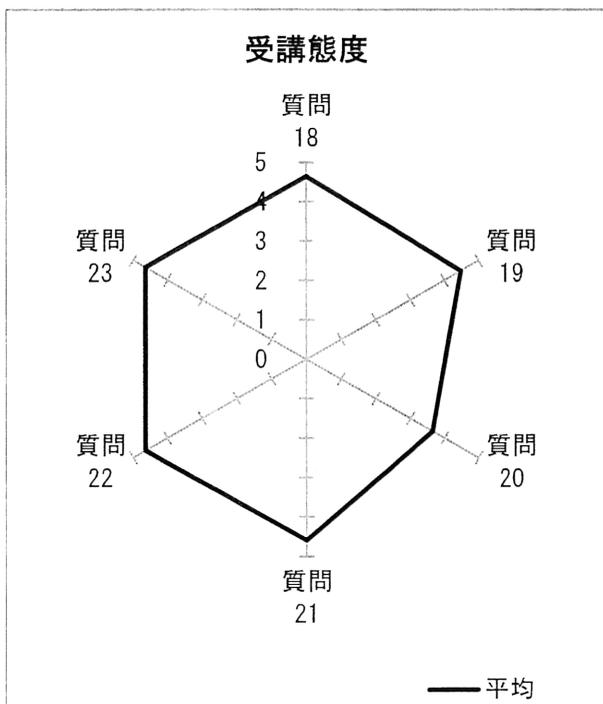
科目コード 217 (2018年度 後期)

国際文化・文学部 日本文化学科 渡辺 誠治 現代の日本語Ⅱ



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.9	4.9	5.0
質問 8	4.8	4.8	5.0
質問 9	4.8	4.8	5.0
質問10	4.8	4.8	5.0
質問11	4.8	4.8	5.0
質問12	4.8	4.8	5.0
質問13	4.7	4.7	5.0
質問14	4.8	4.8	5.0
質問15	4.7	4.7	5.0
質問16	4.6	4.6	5.0
質問17	4.6	4.6	5.0
平均	4.7	4.7	5.0

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮(私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.5
質問20	3.6
質問21	4.6
質問22	4.6
質問23	4.6
平均	4.4

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数(0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
文学部	現代日本文化学科	渡辺誠治	現代の日本語Ⅱ	19

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果 : 教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

概ね高評価であるが、下位層の評価が高くなっているのが問題である。

極力、学生主体の学習を心がけ、毎回、突っ込んだ議論を行ったことが評価に繋がっている。

II. 2019 年度に向けての取り組み

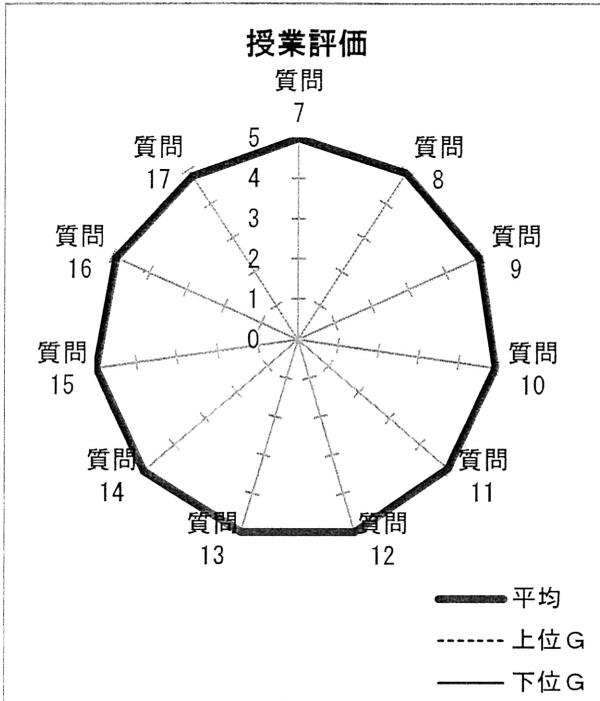
2019 年度担当予定科目名：現代の日本語

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

グループ学習を維持し、課題を学生間で考え抜く形式を維持したい。

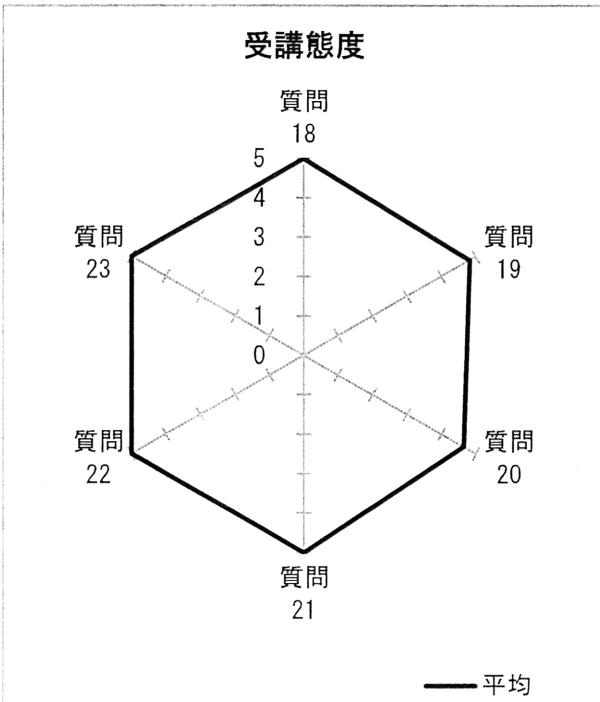
科目コード 218 (2018年度 後期)

国際文化・文学部 日本文化学科 渡辺 誠治 専門セミナーⅡ・Ⅳ



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 9	4.9	4.9	#DIV/0!
質問10	4.9	4.9	#DIV/0!
質問11	4.9	4.9	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	5.0	5.0	#DIV/0!
質問16	4.9	4.9	#DIV/0!
質問17	4.8	4.8	#DIV/0!
平均	4.9	4.9	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	5.0
質問19	4.8
質問20	4.6
質問21	5.0
質問22	5.0
質問23	5.0
平均	4.9

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
文学部	現代日本文化学科	渡辺誠治	専門セミナーⅡⅣ	17

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果 : 教員による分析・評価と 2018 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

学生にとっては厳しいゼミであったはずだが、評価は高かった。

人間関係ではなく情報重視の議論を学生が身につけていく過程を実感できたのではないかと思う。

II. 2019 年度に向けての取り組み

2019 年度担当予定科目名 : 同上

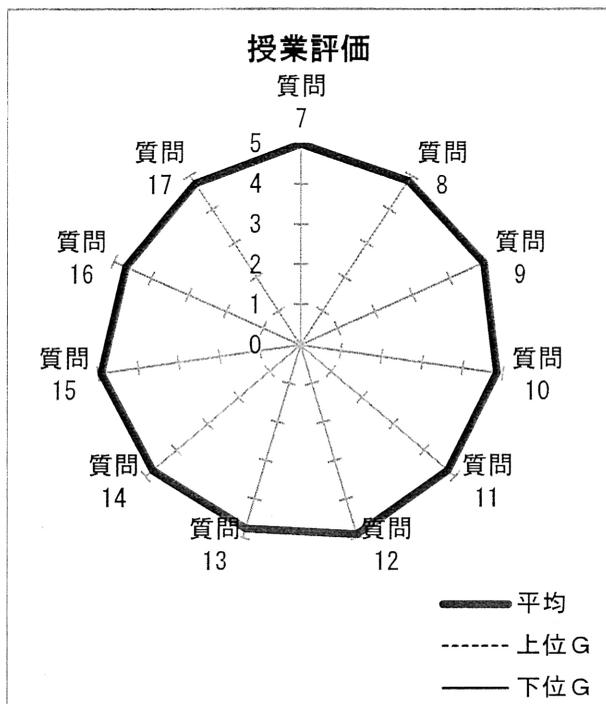
(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

さらに厳しく学生に接したい。

改善点としては、研究計画の実行について、厳しくチェックをしていきたい。

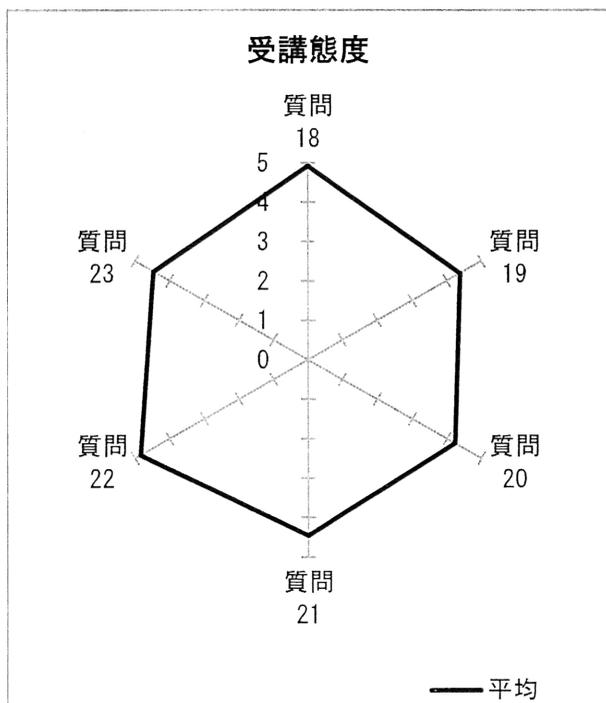
科目コード 231 (2018年度 後期)

国際文化・文学部 日本文化学科 石田 陽介 企画実務論



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 9	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 10	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 11	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 12	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 13	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 14	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 15	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 16	4.7	4.7	#DIV/0!
質問 17	4.8	4.8	#DIV/0!
平均	4.8	4.8	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問 10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問 11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問 12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問 13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問 14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問 15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問 16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問 17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問 18	4.9
質問 19	4.4
質問 20	4.2
質問 21	4.5
質問 22	4.8
質問 23	4.5
平均	4.6

- 質問 18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問 19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問 20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問 21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問 22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問 23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
国際文化学部	日本文化学科	石田陽介	企画実務論	16

2018年度後期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

企画実務における、企画立案、企画書制作、プレゼンテーション発表といった一連の実務作業経験を、各段階を通して関心を喚起し、受講生の技術力の習得と理解の促進に努めたことが、高結果となって評価されたと考える。

II. 2019年度に向けての取り組み

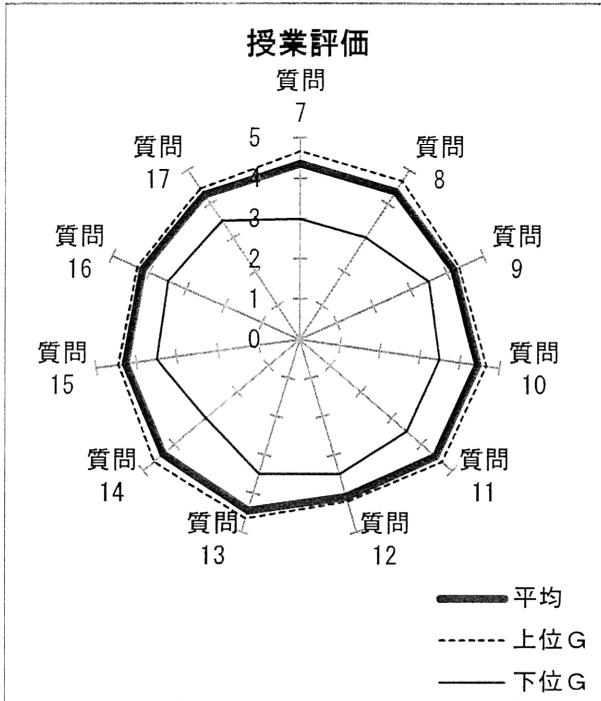
2019年度担当予定科目名：企画実務論

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

前回の「授業評価アンケート」の高結果を受け、「企画実務」の工程をより分かりやすく実体験できるように努めたいと考える。

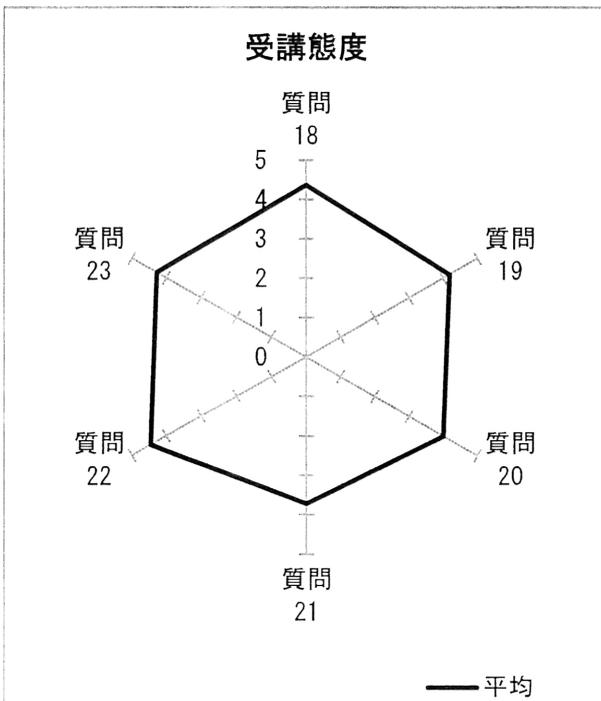
科目コード 251 (2018年度 後期)

国際文化・文学部 日本文化学科 田中 俊廣 日本近現代文学史



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.4	4.7	3.0
質問 8	4.4	4.7	3.0
質問 9	4.2	4.3	3.5
質問10	4.5	4.7	3.5
質問11	4.5	4.7	3.5
質問12	4.1	4.2	3.5
質問13	4.5	4.7	3.5
質問14	4.4	4.7	3.0
質問15	4.3	4.4	3.5
質問16	4.2	4.3	3.5
質問17	4.3	4.4	3.5
平均	4.3	4.5	3.4

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.4
質問19	4.2
質問20	4.0
質問21	3.7
質問22	4.5
質問23	4.3
平均	4.2

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
国際文化・文学部	日本文化学科	田中 俊廣	日本近現代文学史	39

2018年度後期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

評価の上位と下位の差が激しいということは、ある程度理解できる人とそうでない人に分かれているということであろう。他学科から、そして留学生の受講もあることから、もっと基本的な近代史や文学の内容を押さえて進めなければならない。

II. 2019年度に向けての取り組み

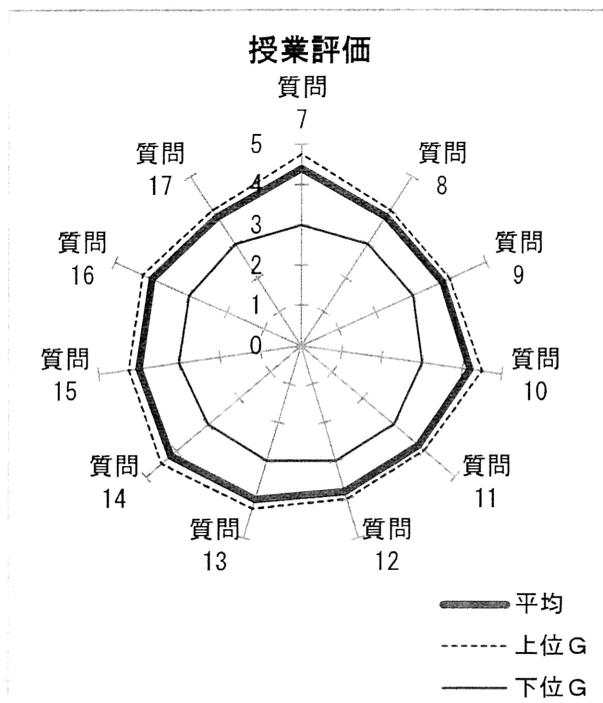
2019年度担当予定科目名：日本近現代文学史

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

テキストは、比較的基本的な内容であり、しかも、問題点の指摘も深いですが、この読解も難しいところもあるのかもしれない。もっと理解できるような説明と補助的な映像も加えながら進めていきたい。あるいは、通史を辿るのではなく、ポイントやアクセントに特化していく方法もある。

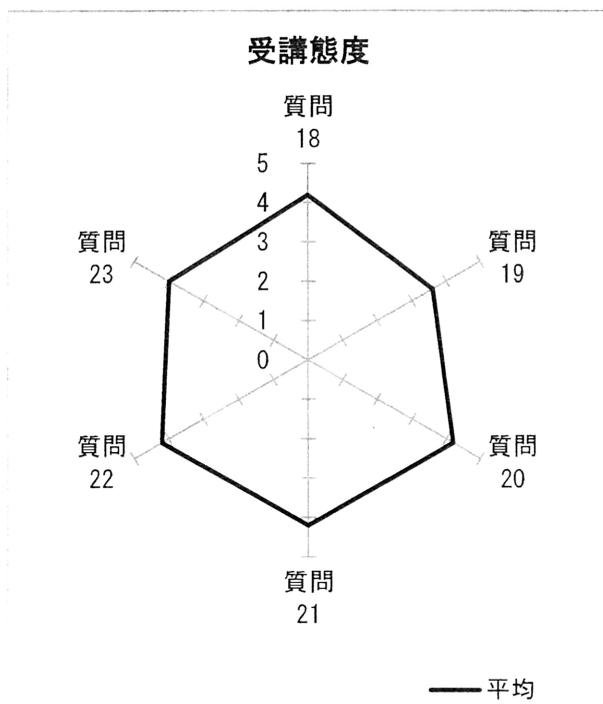
科目コード 255 (2018年度 後期)

国際文化・文学部 日本文化学科 長尾 博 心理学セミナーⅡ



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.4	4.8	3.0
質問 8	3.8	4.0	3.0
質問 9	3.8	4.0	3.0
質問10	4.2	4.5	3.0
質問11	3.8	4.0	3.0
質問12	3.8	4.0	3.0
質問13	4.0	4.3	3.0
質問14	4.2	4.5	3.0
質問15	4.0	4.3	3.0
質問16	4.0	4.3	3.0
質問17	3.8	4.0	3.0
平均	4.0	4.2	3.0

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.2
質問19	3.6
質問20	4.2
質問21	4.2
質問22	4.2
質問23	4.0
平均	4.1

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
国際文化・文学部	日本文化学科	長尾 博	心理学セミナーⅡ	5名

2018年度後期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

総合的にバランスよく評価されている。受講者が少なく、心理テストの実践とその評価が受講者にとっては授業の満足や充実を感じたと思われる。

しかし、この科目は、なくなる

II. 2019年度に向けての取り組み

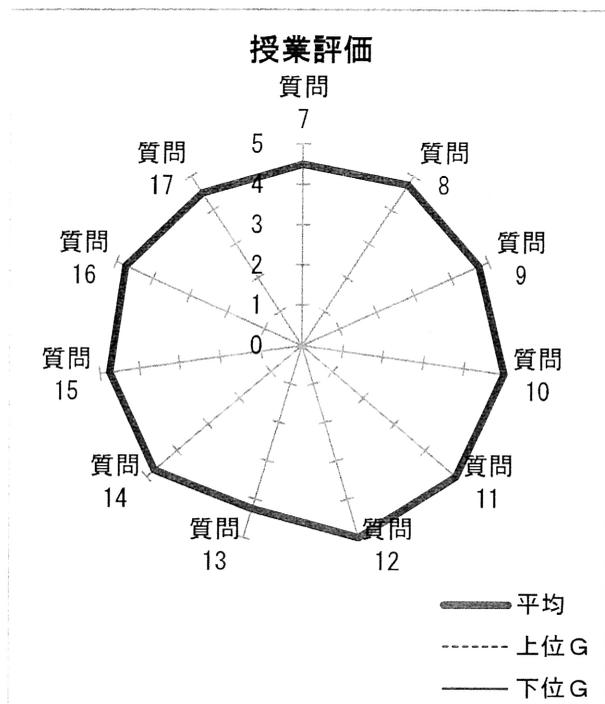
2019年度担当予定科目名：心理学（教養教育科目）

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

久しぶりに担当許可を得た科目であり、受講者数も120名を超えている。受講者が多い科目に対してどの程度、学生が授業内容に満足して受講するかをみてみたい。

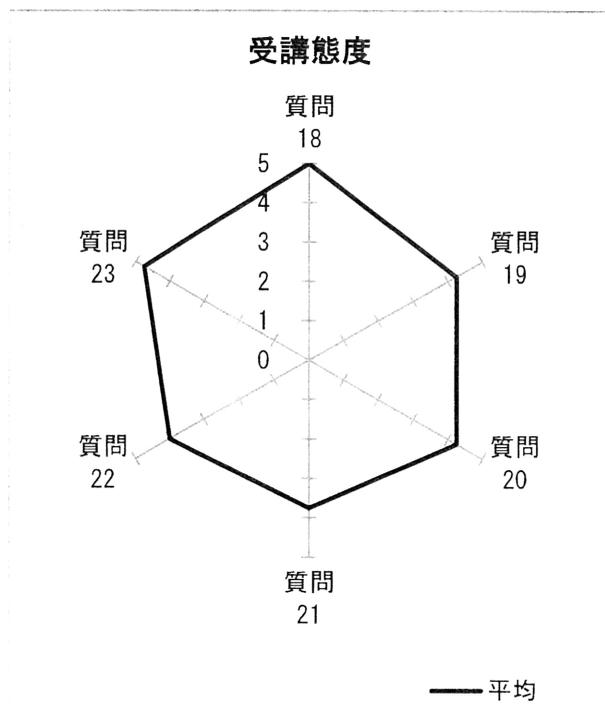
科目コード 256 (2018年度 後期)

国際文化・文学部 日本文化学科 長尾 博 心理面接法



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.5	4.5	#DIV/0!
質問 8	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 9	4.8	4.8	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	4.3	4.3	#DIV/0!
質問14	4.8	4.8	#DIV/0!
質問15	4.8	4.8	#DIV/0!
質問16	4.8	4.8	#DIV/0!
質問17	4.5	4.5	#DIV/0!
平均	4.7	4.7	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	5.0
質問19	4.3
質問20	4.3
質問21	3.8
質問22	4.0
質問23	4.8
平均	4.3

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
国際文化・文学部	日本文化学科	長尾 博	心理面接法	4名

2018年度後期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

シラバスの通りにテキストすべてを行えなかった点に問題がある。今までとらえてきた「カウンセリング」イメージと授業内容とに違いがあり、新しい知識を得たいことができなかつたようである。しかし、長年、担当してきたこの科目もなくなる。

II. 2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名：精神保健学I（臨床心理学a）

（同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。）

「人間関係学科」としては、なくなっていく科目であり、この科目に以前のようには関心のない少数の学生に対してどの程度、この科目の授業内容に関心を持たせられるか挑戦してみたい。